競技・審判上の注意

1. 競技上の注意

1） 競技規則について

本大会は、平成28年9月11日改訂後現在の平成28年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程および同公認審判員規程により行います。

2） 競技方法について

各種目ともトーナメント方式とし、3位決定戦は行いません。

3） 団体戦メンバーおよびベンチについて

チーム構成員は、チーム役員（部長・監督・主将・主務 各1名、コーチ2名まで）、選手4～10名とします。 ベンチ入り出来る者は、チーム構成員を限度とします。なお、ベンチは主審に向かって右側を若番とします。

4） 団体戦メンバーの変更について

チーム構成員の変更は、10月14日（金）の代表者会議受付時に受け付けます。

5） 団体戦オーダーの提出について

各チームの代表者は、本部の指示に従って オーダーを提出してください。各日、初回の試合のオーダーは、9時15分までに提出してください。なお、対戦相手との交換分は試合開始の整列時に主審からお渡しします。

6） 選手の集合について

試合の進行状況によっては、試合開始時間やコートを変更して試合を行う場合があります。
原則として選手は、試合開始予定時間の1時間前には試合会場にて待機してください。
試合のコールがされたら選手は、速やかにコートに直接集合してください。団体戦の場合は、整列時においてオーダーに欠員が生じた場合、そのチームを棄権とします。また、コール後5分以上経過してコートに選手が揃わない場合には棄権とみなす場合があります。
あらかじめ棄権がわかっている場合には、代表者会議の際に申し出てください。
（所定の棄権届出用紙に必要事項を記載し、提出していただきます。）

7） 練習時間について

団体戦・個人戦ともに、試合ごとにトスの後に2分以内の練習を認めます。シングルスの場合には対戦相手と練習を行ってください。この試合前練習以外に練習時間は特に設けません。空きコート及び競技区域外では、シャトルを打ったり素振りやフットワークをしたりする等、練習は一切できません。

8） 団体戦の試合順序および打ち切りに関して

団体戦は、第1単－第2単－第1複－第2複－第3単の順に行い、勝敗決定後は並行試合を含む、全ての試合を打ち切りとします。

9） 連続試合の間隔・団体戦の並行試合について

連続試合の場合は、試合終了後20分程度のレストタイムを設けます。ただし、団体戦において、第2単と第1複、第2複と第3単を兼ねている場合（試合順序の中で連続出場している場合）にはこの限りではありません（レストタイムを設けません）。
また、時間の都合上、同一団体戦の試合を2試合以上並行して行うことがあります。並行試合をすることにより、同一選手の試合が連続する場合には、20分程度のレストタイムを設けます。

10）インターバルについて

すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えない インターバルを認め、第1ゲームと第2ゲームの間、 第2ゲームと第3ゲームの間に、120秒を超えないインターバルを認めます。

11）アドバイスについて

シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ中にアドバイスを受けることができます。コーチは、許可されたインターバルを除き、指定された椅子に着席するものとし、チェンジエンズの都度、帯同するサイドへの移動をお願いいたします。
各コートのバックバウンダリーライン後方にコーチ席を2席配置します。監督・コーチはマッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。

12）競技時のプレーヤーの服装について

色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品を限度とします。また、上衣背面に所属する大学名をはっきり確認できるよう明示してください。ゼッケンを使用する場合には四隅をしっかりと固定してください。
(表示については大会運営規程第24条を遵守してください。ロゴの表示については全日本学生バドミントン連盟に申請しているものに限ります。)

13）シャトルについて

シャトルは、第1種検定合格品を使用し、銘柄の変更には応じられません。マッチ（試合）及び団体戦一対抗内は、1銘柄固定とします。
また、使用シャトルのスピードについては、レフェリー（競技役員長）が決定します。

14）携帯電話について

競技者は、マッチ（試合）中の競技区域または、コート周辺では携帯電話の電源はオフにしてください。 また、コーチ席やベンチにおいても、携帯電話の使用は禁止します。また、コーチ席やベンチにおいても携帯電話の使用は禁止します（スマートフォンでの写真や動画の撮影もできません）。
マッチ（試合）中のコートまたはその周辺において携帯電話が鳴った場合、競技規則第16条6項(4)の違反とみなし、同第16条7項を適用します。

15）試合中の怪我や病気について

試合中の病気やその他の事故のため競技を続行できないときは、主審はレフェリーに報告し、レフェリーの判定により棄権とみなします。なお、試合中の応急処置は主催者側で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。

16）競技マナー

選手は、プレー継続の妨げになるような行為は慎んでください。又、主審（サービス・ジャッジ）、線審の判定に影響を与えるような、身振り手振り、そしてラケットを使用しての威嚇、或いは言葉による冒とく等を不品行な振る舞いとして処置します。また、試合終了時に、主審、サービスジャッジと握手するよう心掛けてください。

17）会場ルールについて

葛飾区水元総合スポーツセンターを含めて、インプレー中にコート上の付属物（バスケットポールリング等）にシャトルが当たった場合はフォルトとします。

2. 審判上の注意

1） 審判の担当について

主審は、団体戦 ・ 個人戦ともに主管者で行います。
線審は、団体戦の10月15日（1～3回戦）については、各大学での担当制とします。試合をするコートとは別のコートの線審に就いてください。16日（準決勝・決勝）は、主管者で行います。また、個人戦の17、18日（各種目1～3回戦）については、各日初回の試合は主管者で行いますが、以降の試合の敗者の方は線審に就いてください。19、20日（4回戦以降）の試合はすべて主管者側で行います。
得点表示係は、団体戦・個人戦ともに対戦両者相談の上、配置してください。

2） スコアリングシステムについて

すべての種目を21ポイント3ゲームマッチ（ラリーポイント制）にて行います。スコアが20―20になった場合、その後2点リードをしたサイドがそのゲームの勝者となり、29―29になった場合には先に30点目を得点したサイドがそのゲームの勝者となります。

3） プレーヤーがコートを離れることについて

プレーヤーは競技規則第16条第2項のインターバルを除き、マッチ（試合）中、主審の許可なしにコートを離れてはなりません。 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。なお、給水の容器についてはフタ付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。 缶や紙パックのドリンクの持ち込みは禁止とします。

4） プレーの遅延について

プレーヤーは、どんなことがあっても、体力や息切れを回復できるように、または、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせてはなりません。また、コート内を不必要に歩き回ったりすることは許されません。

5） コートの外からのアドバイスについて

シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ（試合）中、アドバイスを受けることができます。

6） プレーヤー以外の競技者がコートに入ることについて

プレーヤー以外の者は、原則としてコートに入ってはなりませんが、競技規則 第16条第2項に定めるインターバルでは、どちらのサイドも同時に2人までエンドが替った後のコートに入ることができます。そして、主審が「・・・20秒」とコールしたらコートを離れるものとします。

7） シャトルの交換について

マッチ（試合）中のシャトルの交換は、主審が必要かどうかを決定します。

8） 不品行な振舞いについて

競技規則第16条第4項、第5項、第6項のいかなる違反に対しても、主審は次の処置をとります。

（1）違反したサイドに警告をします。
（2）一度警告の受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトにします。
（3）目に余る不品行な振舞いをしたり、またはそれを続けたりした場合には、その違反したサイドをフォルトとし、直ちに競技役員長（レフェリー）に報告します。

9） 判定への質問について

審判員の判定に対して疑問がある場合は、個人戦の場合は、当該プレーヤーが、団体戦の場合は、当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められます。ただし、抗議あるいは異議であってはなりません。

10）マッチ（試合）中の棄権について

マッチ（試合）中に 選手から棄権の申し出があったときには、主審が判定します。個人戦での棄権の場合、競技役員長（レフェリー）が正当な理由として認められない場合の当該選手は、以降他のエントリー種目に出場できません。

11）線審の判定について

線審は 担当ラインについて、「イン」・「アウト」・「判定できない」を判定し、合図をしてください。また、アウトのときは、大きな声で「アウト」とコールしてください。

3. その他 の注意

1） 部旗・応援旗の掲示について

部旗等は競技に支障をきたさない大きさのものを使用してください。競技に支障をきたすと判断される場合には、移動をお願いいたします。また、部旗等は観覧席に掲示するものとし、貼り付ける場合には必ずひもを使用してください。

2） ビデオ撮影について

試合中のビデオ撮影は、バッテリーを使用した撮影のみ認めます。体育館内の電源を使用することは禁止します。

3） ごみについて

大会中に発生したごみは、各自必ずお持ち帰りください。また、館内の自動販売機以外で購入したペットボトルは、必ずお持ち帰りください。
（館内の自動販売機に設置してある空容器収納ボックスに絶対捨ててはいけません。）

4） 喫煙について

会場内での喫煙は、館外に指定された場所以外では絶対吸わないでください。トイレで喫煙するような行為があれば、大会が続行できませんので絶対しないでください。

5） 飲食について

アリーナ内での飲食は禁止します。

6） その他

①フロアー内は土足禁止です。フロアー内では必ず室内シューズを着用してください。
②ロージンバッグ・雑巾・氷嚢等をフロアー内に持ち込む場合は、床を保護する物を下に敷いてください。また、フロアー内へのクーラーボックスの持ち込みは禁止しますが、ラケットバッグに入る程度の小さなクーラーバッグは持込を認めます。飲み物は専用のバスケットを用意しますので、その中に置くようにしてください。
（※ただし、万が一床を濡らしたり、汚した場合には速やかに清拭してください。）
③貴重品は、各自で管理してください。 盗難・紛失には責任をおいません。
④会場内での事故による応急処置はいたしますが、その後の責任は各参加者の負担となります。また、傷病発生の場合には、必ず大会本部まで届け出てください。